I am Jazz!（ジャズ・スーパー列伝）

ジャズの発展に貢献し、その歴史に名を刻んだ名プレイヤーたち。その人生は、楽器が異なる如く千差万別。このコーナーでは、そんな個性的なジャズマンたちの功績を称え、生き様を紹介することで、より多くの人々にジャズの素晴らしさを伝えていきたい。

Vol. 17
Curtis Fuller【カーティス・フラー】
～ジャズ史が誇る人気ジャズ・トロンボーン奏者～

写真提供：コロムビアミュージックエンタテインメント株式会社

Profile

本名は Curtis DuBois Fuller。1934 年 12 月 15 日米国ミシガン州デトロイトで生まれる。ジャマイカ出身の両親と幼少の頃に死別し、その後は孤児院で育つ。地元デトロイトの高校時代に音楽の勉強を始め、16 歳の時にトロンボーンを手にすると共にポール・チェンバース、ドナルド・バード等と知り合い、トミー・フラナガンやサド・ジョーンズとも旧知の仲となる。53 年から 55 年に軍隊に在籍し、その間にポール・チェンバースやキャノンボール・アダレイ、ナット・アダレイとバンドで共演。その後、ユセフ・ラティーフのバンドに参加。57 年にニューヨークに進出すると、プレスティッジに初リーダー・アルバム『ニュー・トロンボーン』に続いて『カーティス・フラー・ウィズ・レッド・ガーランド』を録音。ブルーノートのアルフレッド・ライオンに見出されて、ジョン・コルトレーンのアルバム『ブルー・トレイン』の録音に参加し、リー・モーガンと共に 3 管の一人として参加し評価されるのを機に『ジ・オーブナー』『ボーン・アンド・バリ』『カーティス・フラー Vol.3』と僅か半年の間に 5 枚のリーダー作を立て続けに発表。58 年には代表作と称される『ブルース・エット』をリリース。60 年にはベニー・ゴルソンとアート・ファーマーがリーダーのジャズテットに参加。61 年夏にアート・ブレイキーのジャズ・メッセンジャーズに加入し、65 年 2 月まで在籍。60 年代後半にはディジー・ガレスピーのバンドに参加。その後はフリーとして活動。75 年から 77 年にカウント・ベイシー・バンドに加入。80 年代にはシダー・ウォルトン、ハロルド・ランド等とタイムレス・オールスターズの一員として欧州ツアーを行う。93 年にはオリジナルとほぼ同じメンバーで『ブルース・エット II』を発表し話題となるなど今も健在。

CF's Great Album

他にも、ブルーノートに残した『ボーン・アンド・バリ』『カーティス・フラー Vol.3』をはじめ、多くの名盤を残しており、この人の作品はジャケットのカッコ良さでも目を引く。

カーティスの記念すべき初リーダー作品！

ニュー・トロンボーン
カーティス・フラー
（ユニバーサル・ミュージック：UCCO-9105）

カーティス・フラー (tb)、
ソニー・レッド (as)、
ハンク・ジョーンズ (p)、
ダグ・ワトキンス (b)、
ルイス・ヘイズ (ds)

1. ヴォンス #5 2. トランスポーテーション・ブルース
3. ブルー・ロウソン 4. ネイムリー・ユー 5. 恋とは何でしょう？
6. アリシア

まずなんと言っても、ジャケット写真が渋い！　本作は 1957 年に地元デトロイトからニューヨークに進出後、同年 5 月にプレスティッジに吹き込んだ記念すべき初リーダー作品。このレコーディングの直後からハード・バップのセッションで引っ張りだことなるカーティスの勢いとパワーを感じさせる。カーティスとフロントでアルトを吹いているのは、カーティスと同郷のデトロイト出身の 2 歳年上のソニー・レッド。ベースも同じデトロイト出身で同い年のダグ・ワトキンス。ドラムのルイス・ヘイズもデトロイト出身の 3 つ年下。ピアノのハンク・ジョーンズはデトロイト出身ではないが同じミシガン州出身ということで、気心の知れたメンバーを従えたカーティスの名刺代わりの一枚といえる快作！

本領発揮！　カーティスのブルーノート初リーダー作品！！

ジ・オープナー
カーティス・フラー
（EMI ミュージック・ジャパン：TOCJ-7141）

カーティス・フラー (tb)、
ハンク・モブレイ (ts)、
ボビー・ティモンズ (p)、
ポール・チェンバース (b)、
アート・テイラー (ds)

1. 素敵な夜を 2. ヒューゴア 3. オスカリプソ
4. ヒアズ・トゥ・マイ・レディ 5. リジーズ・バウンス 6. スーン

バド・パウエルの推薦によって、ブルーノートのアルフレッド・ライオンに見出され、コルトレーンのアルバム『ブルー・トレイン』の録音参加を機に、トントン拍子でこのブルーノートにおける初リーダー作を吹き込んだカーティス。録音は 1957 年 6 月。アルバムのタイトル通り、その後のブルーノートにおける快進撃のはじまりを告げる本領発揮の一枚！　テナーの H・モブレーのプレイも光り輝き、B・ティモンズ、P・チェンバース、A・テイラーといった他のメンバーの顔ぶれだけを見ただけでもその完成度の高さが窺い知れる。冒頭の「素敵な夜を」のカーティスの音色や「オスカリプソ」でのアドリブも素晴らしく、ラストを飾るガーシュイン作の「スーン」はぜひとも一度は聴いてもらいたい！

カーティスの代表作と称される傑作！

ブルースエット
カーティス・フラー
（コロムビアミュージック：COCB-53479）

カーティス・フラー (tb)、
ベニー・ゴルソン (ts)、
トミー・フラナガン (p)、
ジミー・ギャリソン (b)、
アル・ヘイウッド (ds)

1. ファイヴ・スポット・アフター・ダーク 2. アンディサイデッド
3. ブルースエット 4. マイナー・バンプ
5. ラヴ・ユア・スペル・イズ・エヴリホエア 6. トゥエルヴ・インチ
7. ファイブ・スポット・アフター・ダーク～テイク4（他、全 9 曲）

その昔はジャズ喫茶での愛聴盤としても親しまれ、あの村上春樹著『アフターダーク』のモチーフともなったジャズ史に輝く歴史的名盤！　その『アフターダーク』の題名の由来になっているのがオープニングを飾る「ファイヴ・スポット・アフター・ダーク 」で、ニューヨークにあったジャズ・クラブ「ファイヴ・スポット」にちなんだベニー・ゴルソン作のマイナー・ブルースで、さすがに印象深く、カーティスと作曲者であるベニー・ゴルソンの哀愁漂うプレイは感動的！　この 2 人はその後も名コンビとして数々の名演を残しているが、ブルース・フィーリングに溢れ、尚且つファンキーな本作が何故それほどまでに人気があるのかは、一度聴いてみれば即納得です！　録音は 1959 年。

ジャズ・トローンボーン奏者

日本でジャズ・トロンボーン奏者といえば、向井滋春が有名だが、あのクレージーキャッツのメンバーであり、元々大学在学時からジャズ・トロンボーン奏者として数々のバンドで活躍していた谷啓も有名だ。本場アメリカでは、カーティスと共に二大巨頭の一角として活躍した J.J. ジョンソンの名前がまず挙がるだろう。その他、人気が高かったベニー・グリーンや J.J. ジョンソンと並ぶ存在と称され、左利きの天才奏者だったスライド・ハンプトン。スタン・ゲッツのグループで活躍した白人バルブ・トロンボーン奏者のボブ・ブルックマイヤー。1952 年生まれで J.J. ジョンソンを凌ぐほどの超絶テクを誇ることでも有名なレイ・アンダーソンなど、サックスやトランペット奏者に比べるとその数は極端に少ないものの、あの独特のほのぼのとしたような音色が醸し出す存在感はとても大きい。カーティスをはじめ、ジャズ・トロンボーン奏者のプレイにもぜひ注目して欲しい！

カーティスの初来日

カーティスが初来日を果たしのは 1963 年 1 月。アート・ブレイキー＆ザ・ジャズ・メッセンジャーズのメンバーとして、フレディ・ハバード (tp)、ウェイン・ショーター (ts)、シダー・ウォルトン (p)、レジー・ワークマン (b) と共に日本の地を踏んだ。

コルトレーンの『ブルー・トレイン』

ジョン・コルトレーンが唯一ブルーノートに吹き込んだリーダー作『ブルー・トレイン』は、麻薬の常習が原因でマイルス・デイビスのグループから一次的にクビになり、お金に困ったコルトレーンが友人であったカーティスに相談し、カーティスの紹介でレコーディングが実現したという逸話を持つ作品。リー・モーガン（tp）と共に、ちゃっかりとセクステットの一員としてレコーディングにも参加してしまっているカーティスの存在感も抜群！